

# カトリック六甲教会 教会報

2012

3

No.483

苦しみをイエスのもとに運ぶ  
～四旬節にあたって～

片柳 弘史 助任司祭

マルコ福音書の 2 章に、中風の病人を床板に載せてイエスのもとに運ぶ 4 人の男たちのことが描かれています。イエスはいつも、病人自身の信仰を見てその人を癒すのですが、このときは病者を運んできた男たちの信仰を見て病人を癒しています。彼らのうちにイエスが見た信仰とはいったいどのようなものだったのでしょうか。

この 4 人の男性と中風の人の関係はよく分からないのですが、仮に病気のお父さんを連れてきた 4 人の兄弟と想像してみましょう。イエスという預言者が現れて次々と病人を癒しているという噂を聞いた兄弟は、長年病気で苦しんでいる父親をイエスに会わせたいと思って、父親を床板に載せて近隣の村からやってきました。しかしようやくカファルナウムに入り、イエスのいる家の前まで来ると、たくさんの方が中にいてとても入れそうにありません。

普通ならあきらめて外で待つところですが、父親の苦しみを一刻も早く取り除いてあげたい、今すぐにもイエスに会わせてあげたいという一心の兄弟は、知恵を合わせて全く思いがけない方法を思いつきます。天井から父親を床板ごと吊り下ろそうというのです。そのために、ある者は頑丈なロープをとり、家へ飛んで帰り、ある者は友だちから梯子を借り、駆け出していきます。こうして、今日読まれた聖書の場面が実現しました。

兄弟たちのイエスへの無条件の信頼と、父への深い愛によって一つになった心の中に、イエスはたぐいまれな信仰を見ました。イエスが病気の父親に向かって「あなたは本当によい息子たちを持った。これほどまでに愛されたあなたの罪はゆるされる」と語りかける様子が目に浮かぶようです。

この 4 人の男たちの姿に、わたしたち教会の果たすべき使命が示されているように思います。

わたしたちの身の周りには、長い間病気で寝ている人、身寄りのない孤独な人、思うような仕事につけず絶望しかけている人など、苦しみの中で助けを求めている人たちがたくさんいます。その中には、もはや自分の足で歩いてイエスのもとに行く力さえ失った人もいるでしょう。神の前にわたしたちの兄弟姉妹であり、家族であるその人たちを、心と力を合わせてイエスのもとに運び、癒していただく、それこそ教会に集うわたしたちに与えられた使命なのです。四旬節に当たって、もう一度この使命をしっかりと心に刻みましょう。





キリスト教の基礎知識シリーズ I  
【イエス・その8】

カルケドン公会議（第4回公会議 451年10月）は、イエス・キリストが神性においては神と同一本質を有し、人間性においては我々と同一本質を有すること、両本性は同一かつ唯一の位格において混合・変化・分割・分離なく結合していることを宣言した。この教義は、現代においても正統信仰の規範として有効であると同時に、我々はその内容を現代人の救いへの問いに対して、現代人の言語によって新たに語るべく求められている。

1. 四世紀～六世紀までのキリスト論の発展から；

この時代の三つの教会会議（エフェソ公会議・カルケドン公会議・第二コンスタンチノポリス公会議）において、その発展が見られる。そこには四つの段階がある。

(1) 326年頃まで（ニカイア公会議 325年）：アポリナリス説

アリウス説が問題となり、排斥された。「生まれたのではなく、成ったのでもない。唯一の永遠な存在、始めなき唯一の存在。一言で言えば、唯一の神は聖父なのである。これこそ本質的な点である。神は絶対的に存在する唯一のものであり、あらゆる存在の根源である」。この主張からアリウスは、どうしてもロゴスを相対的に低めざるを得なくなる。そこでロゴスは「それ自身は永遠ではなく、父と共に永遠なのであり、父のようにとするのは、ロゴスが受けたものは、生命も存在も父なる神からのものだからである」。人性と神性⇒魂なしの人性であって、人性説が欠陥、不十分である。またロゴスが何であるかということより、人となったということ。「神の子が人となった」。

人間は：ヌース  $\nu\omicron\upsilon\sigma$  (理性)、フエー  $\phi\epsilon\eta$  (魂)、サルクス  $\sigma\alpha\kappa\iota\varsigma$  (肉)

キリストは：ロゴス  $\lambda\omicron\gamma\omicron\sigma$  (み言葉・知恵)、フエー (魂)、サルクス (肉)

そこでキリストにヌースが欠けている。その代わりにロゴスが成る。それは人間として不完全である。これに対してアタナシオスは、非難した。またアリウスの三位一体論に反対した司教アポリナリスは、アレキサンドリアで司教会議を開催した。そこで「神の子が人となった目的は、人類の救い。そのため人間の本性を受け取った。キリストは完全な人間である。「肉と成られた、御言葉の本性は唯一である」。(単性説)

$\mu\iota\alpha\ \omicron\ \phi\iota\sigma\iota\sigma\ \eta\ \tau\omicron\upsilon\ \theta\epsilon\omicron\upsilon\ \lambda\omicron\gamma\omicron\upsilon\ \sigma\epsilon\sigma\alpha\lambda\kappa\omicron\mu\epsilon\nu\epsilon$

(2) 431年エフェソ公会議：ネストリウス説

二つの型のキリスト論

① アレキサンドリア学派のキリスト論

ロゴス・サルクス・キリスト論⇒人格がない。御子となった御言葉。神の言葉と人間

$\kappa\alpha\iota\ \omicron\ \lambda\omicron\gamma\omicron\sigma\ \sigma\alpha\kappa\iota\varsigma\ \epsilon\gamma\epsilon\nu\epsilon\tau\omicron$  の統一。上からのキリスト論。

② アンティオキア学派のキリスト論

ロゴス・アンスローポス・キリスト論⇒人格がある。ナザレのイエスから出発し、歴

$\lambda\omicron\gamma\omicron\sigma\ \alpha\nu\theta\rho\omega\pi\omicron\sigma\ \chi\rho\iota\sigma\tau\omicron\sigma$  史的な人間を見て、これは神の言葉であるとした。

下からのキリスト論。

ネストリウスにおいて、この二つの説が衝突。彼は信者が祈りに使う『神の母』テオ・トコスは、「キリストの母」クリスト・トコスと言わねばならない。神はいわば神殿のうちに住むごとく、人間イエスのうちに住まわれる。したがってマリアは、神性の道具たる人間を宿した。聖霊は、マリアから神のロゴスを造ったのではなく、その為の神殿を造った。これに対して、キュリロスは「主体の統一を強調」。『キリストの中に二つの本性、一つの位格』。

これは二つの間の一致をヒュポスタシスによる一致であるとした。エフェゾ公会議は、キュリロスの主張を入れてネストリウスを排斥した。

**(3) 451年カルケドン公会議；エウテュケス 単性説**

イエス・キリストにおいて神性と人間性との結合の後、神性が人間性を吸収し、一つの本性（神性）のみ存在する。

フラビヤヌス司教は、エウテュケス説を排斥したが、エウテュケスはディオドロス司教に保護を求め、断罪を取り消すも、教皇レオー一世はこれを非難した。そして、テオドシウス二世の後継者マルキアノスは、451年カルケドン公会議を開催した。ニケア・コンスタンチノポリス信条とレオー一世の教書が朗読され、神人両性論が宣言された。

**(4) 451年～553年第二コンスタンチノポリス公会議（ネオ・カルケドニスムス）**

① カルケドン公会議の定義の中に二つの本性がある。

(a) キリストは、人間の本性で人間として行い。神性で神として行う。他方、キリストはペルソナとして行っている。二つの本性は、全く異なったことであれば問題はない。

(b) essential [本性] & persona [位格]

何が本性に属し、何が位格に属するか、意志はどちらに属するか。これによってキリストの中で位格的なことであれば一つ。しかし、本性的なことであればキリストの中に二つあることになる。キリストの中の意志は、位格的と考えた7世紀ごろまでは、キリストの中に一つ（キリスト単意説）。680年、意志は本性的なことと決め、二つの意志があるとした。

② キリストは、二つの本性だが一つのペルソナ(位格)

本性そのものは存在しないということ。人性が存在するなら人格のこと。キリストに人性はあるが人格がない。どうして人性が存在するのか。そういう意味で神性もないとする。

人格でない本性が、実際に存在することが、どうして出来るのか。「キリストは、神の言葉の位格によって存在する」。

En-hypostasi 二つの本性は、一つの位格に存在する。Unaよりもinを強調する。これをネオ・カルケドニスムスと言った。古代キリスト論はこのように発展した。

**(5) 第三コンスタンチノポリス公会議（680年～681年）**

キリスト単意説および教皇ホノリウス一世排斥(DS554-558)

「真の我々の神である我々の主イエス・キリストは、聖にして同質であり、神性において完全であると同時に人性においても完全であり、まことの神であると共に理性的靈魂と肉体からなる真の人間である。神性において父と同質であり、罪を除いては我々と完全に同じである。「彼は神性において世紀の前に父から生まれ、人性においては、我々と我々の救いのために聖霊によって処女マリアから生まれた（そのため彼女は、真の意味で神の母である）。唯一の同じキリスト、まことの神の御一人子において、二つの本性が混合、混同、分離、分割することなく存在する。一致によって、二つの本性の相違は全然なくなることは全くない。それぞれの本性が固有のものを保ちつつ、一つの位格に合体する。二つのペルソナ（位格）に分離、分割されるのではなく、唯一の同じ神の子である御言葉は、主イエス・キリストに結合する。これは昔、預言者たちが彼について語り、主イエス・キリスト自身が我々に伝えたことである」。

「キリストの中に二つの生来の意志と二つの生来の働きが分割、交換、混同、分離することなしに存在する。この二つの意志、人間としての意志は神としての全能の意志に反したり、拒否したりせず、むしろ従う。イエス自身も”私は自分の意志ではなく、私を派遣した父の意志を行うために天から下った”と言っている……」。

これまでのキリスト論について、神学的専門語の多用（特に〇〇説、ギリシャ文字、特種な神学用語、教父、異端論者、哲学者名など）から、「難しすぎる。もっと平易に」とのご指摘を受けました。確かに、ここまで記述する必要があったかどうか自問しています。ご理解して戴きたいのは、このようにして現在のキリスト教が確立されたと言うこと。またキリスト教の歴史（教義史）を見ますとき、過去に異端とされ排斥された論理が、現在の私たちの抱く疑問点と共通しており、これらを読むとき個々の疑問が解明されることを望みます。戴いたキリスト教信仰は、このように長い教義の歴史を担いながら今日に至っていることを、再確認されることを期待します。

主任司祭 松村信也

## <行事報告>

### 「祝司教叙階 諏訪栄次郎司教様 歓迎ミサ」に参加して

諏訪司教様が叙階されたことは信徒の皆様よくご存知のことですが、神戸地区東ブロックの3教会、神戸中央、住吉、六甲のいずれの教会にも大変関わりの深い方でした。そこで、東ブロックの行事として司教歓迎ミサを行うことが決まりました。昨年12月ごろから準備を進め、2月19日（日）11:15から日本語、英語共用ミサとして行われました。

会場は阪神淡路大震災の後、諏訪司教様が建設にかかわられた神戸中央教会で、司式は司教様はじめ、東ブロックの神父様が多数参加されて行われました。六甲教会からの典礼当番は司教様とかかわりのあった方が朗読、共同祈願を担当され、侍者、奉納は学生たちにお願ひしました。300名定員の会場は補助いすが出され、外国人を含む400名を超える人が集まりました。諏訪司教様が歩いてこられた信仰の道をみんなが称え、振り返り、司教様もそれに応えられて感謝のお言葉を述べられました。みんなの気持ちを通じ合った感動的なごミサであったと思います。ミサ中に集められた175,682円の献金は高松教区支援金にあてられました。

ミサ後、歓迎パーティーが行われ、六甲教会からパーティーの準備に数人のご婦人が手伝っていただきました。会場は入りきれないほどの人で一杯になり、司教様と言葉を交わす方であふれていました。神のみ旨を伝えられる司教様が、今後ともご壮健でますますご活躍されますことを願ってやみません。

(河野)

### 諏訪司教様への共同祈願（歓迎ミサにて）

全能の父なる神様、四国の地に新しい希望に溢れた諏訪司教をお与え下さって有難うございます。司教様は神戸にバイブルハウスを設立する時、カトリック、プロテスタントの人々を区別することなく、助言し、祈りをもって共に苦しみを担って下さいました。

これからも暖かい心をもって神に仕え、人々を愛する司教の職に邁進されますように、司教様のご健康をお守り下さい。

(内山)





## <行事報告>

### 「神戸地区シルバー使徒職養成コース」に参加して

2月の土曜日（13：00～14：00）、3週に亘って神戸中央教会で開催された「神戸地区シルバー使徒職養成コース」に参加しました。神戸地区の11小教区から約50名余りの方が参加されましたが、六甲教会からの参加者が少なかったのは残念です。

第1日目は「私の自叙伝—私の歴史を通して私を知る」と「自分自身の再発見」、第2日目は「イエス・キリストの十字架と復活」と「神が一人ひとりに持っておられる夢—固有の召命—」そして、最終日は「信仰の伝達」と「神のぶどう園で使徒職を生きる」と言ったテーマで進められました。参加者は6～8名単位のグループに分かれ、これ等のテーマを毎回3時間かけて分かち合いました。私のグループに80歳を超えたご高齢のご婦人が2名もおられました。お二人とも良い分かち合いをされていました。

第1日目のテーマでは、今まで生きてきた人生を16コマに年齢を区切り、振り返りをしましたが、今まであまり過去のことを考えなかった私にとっては新たな自己発見につながったように思います。

第2日目のキリストの十字架では、「今、あなた自身が担うように求められている十字架はどのようなものですか」の設問に、多少ためらいを感じました。日頃あまり自分自身がキリストの十字架を担っている自覚がなかったからです。そして、「私の固有なイエス・キリストとは？」の分かち合いでは、我々一人ひとりが固有にキリストの命を受けているのだと言うことを改めて気づかされたように思います。

第3日目では、あの有名なマタイ福音書（20章1～7）のブドウ園のたとえ話を使いながら分かち合いをしました。「あなたたちもぶどう園に行きなさい」と言われている主イエスの呼びかけに、参加された皆様はそれぞれの思いを語られました。

3回に亘るセミナーを通じて、自分自身を振り返り、気づき、そして「信徒一人ひとりが主から呼びかけられ、教会のため、世界のために使命を授かっている。」のだと言うことを改めて痛感しました。

是非、次回もこのような機会があれば皆様もご参加下さい。私はもう歳だからと諦めるのではなく、永遠の命をいただくまで一人ひとりに与えられた「固有の召命」をいかに全うするか、我々信徒に課せられた問題ではないでしょうか。神様はこの世に「がらくた」は一つもお創りになっていない、と言う言葉に肝に銘じながら、これからも自分の出来る範囲で「主のブドウ園」で働き続けたいと思います。

（蛭田）

#### ※マタイ福音 20：1～7

「天の国は次のようにたとえられる。ある家の主人が、ぶどう園で働く労働者を雇うために、夜明けに出かけて行った。主人は、1日につき1デナリオンの約束で、労働者をぶどう園に送った。……」朝早くから働いた労働者も、夕方5時頃から働いた労働者も受け取るのは、同じ1デナリオンだった、と言うたとえ話。



50名余りの参加者は少数グループに分かれ、時の経つのも忘れて熱心に分かち合った。

## 「祈りの道場」に参加して



今回はマルコ福音書を読みながら、「信仰」についての黙想でした。  
「何を信じているのか。あなたの信じていることを教えてほしい。」と問われたら、まして相手がキリスト教と全く無関係の人だとしたら…。「福音」「神の愛」そういった言葉が、自分自身の言葉には中々なりません。難しいです。

折しもその翌日、2月5日は二十六聖人の記念日だったこともあり、大先輩の彼等ならどのように語ってくれるだろうかと、想像したりもしました。

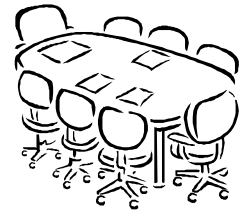
英神父様が「“～べき論”ではなく」と仰っていましたが、正しさよりも愛が尺度になるというお話は、とても身に沁みました。

「祈りの道場」はいつも4回の講話で少しずつ段階を追いながら、自身を見つめ直す時間が持てます。聖堂の外に用意されている飲み物や、沈黙の中で皆といただく美味しい昼食。お世話してくださる方々のお心遣いが嬉しく、この場を借りてお礼申し上げます。いつもありがとうございます。

(田中)

~~~~~

## ～地区会便り～



### 2011年度地区役員会（2012年2月12日）議事録

#### 1. コーディネーターからの連絡事項

(ア) 新年度の地区会の体制について

- ① 来年度より交替で役員会に出席される方の紹介。  
北・三田ブロック 高山 教子さん（岩井ブロック長の補佐）  
神戸西ブロック 亀田 博史さん（志水ブロック長から交代）  
東灘南地区 中川 滋 さん（千原さんの転居にともなう交代）
- ② 新年度地区役員を交代する場合は4月1日までにコーディネーターに報告してほしい。
- ③ 教会のしおりに掲載する締切りは2月中に報告が必要。
- ④ ブロックは本年度ブロック長一人であったが、次年度より補佐をおいて複数体制で行っても構わない。その場合必要に応じて地区役員会に2人で出席することも可能。

#### 2. 拡大評議会の報告

(ア) 年間行事日程の確認 訂正は至急広報部コーディネーターに知らせる。

(イ) 地区役員会日程の確認

4月1日、5月20日、7月22日、9月9日、11月17日、2013年2月3日

#### 3. 地区会及び関係行事日程

(ア) 今年度は4月の親睦会が行われないので、地区会で担当するのは「納涼の夕べ」「バザー」「新年会」の3回となる。

(イ) 各地区がどの行事で何を担当するかを決定する方法はコーディネーターに一任してほしい。

#### 4. 新年会を振り返って

担当地区である東灘北2・芦屋地区長馬場さんより、「ケーキなどの寄付を募ったところ地区を越えて多くの人から協力をいただいたことに感動した。今後については担当が決まった地区で自由に進めていけばよいと思う。」

5. 新年度の連絡網について

(ア)教会メールの普及率

- ① 現在のメールシステム登録者と登録していても届いてない人の名簿を地区ごとに配布。届いていない人は地区で確認してほしい。
- ② メールシステムからのメールは個人メールと違って迷惑メールと判断される場合が多い。また、メールサーバーにメールをためている人は容量オーバーになっている場合もある。

(イ)どんな連絡網にするべきか

- ① 現在は電話連絡を主体とする連絡網を作成してもらっているがメールでの連絡が多くなってきている現状を踏まえて来年度の連絡網を作成してほしい。
- ② 現在、世帯主のみを連絡網に掲載している地区は家族の名前も掲載してほしい。(実際に教会で多く動いている婦人会メンバーの名前が抜けているのはおかしいとの声があるので。) 子供を掲載する場合は個々に確認が必要であるので地区に任せる。
- ③ メールのみで連絡を回す人の名前と電話番号も地区の人たちにわかるようにしてほしい。

6. 電話連絡網を主体とするか併用か各地区の裁量に任せるか

コーディネーターからの要望を受けて各地区で判断。現在の信徒台帳をもとにした名簿を25日までに各地区へ渡すようにするのでそれを参考にする。連絡網は事務所などにも保管するが、コーディネーターがまとめて行うので4月1日までにデータで提出する。

7. 連絡網の作成期限と配布

教会のしおりと一緒にミサ前後に配布する。3月中旬には印刷も済ませている必要がある。

8. 2012年度版「カトリック六甲教会のしおり」について

3月中旬に印刷完了予定。3月24日(土)のミサから配布開始する可能性が高い。聖週間はミサの参加者が多いので復活祭後に各地区で残りのものを個別配布(遠くて不可能な地区は郵送)

以上

～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・

★★ 「ベタニアの集い」へいらっしゃいませんか? ★★

「ベタニアの集い」は奇数月、第三木曜日、午後2時から3時半まで主に高齢の方を対象に、開いています。

小聖堂で神父様による聖体拝領式のあと、心ばかりの茶話会をしています。

「ベタニア」は聖書に登場するマルタとマリア、ラザロ兄弟の住んでいた土地の名前。

「やすらいだ場所」という意をこめて、オマリー神父様が名づけてくださいました。

信徒有志でスタートして以来、15年になります。

当日の参加は、ご自身で、また車椅子やカーサポートのボランティアで来られます。

ボランティアも募集しておりますので、参加してみたいと思われる方は一度ぜひのぞいてみてください。 次回は3月15日(木)です。

( お問い合わせは 金子まで )

## 2012年度 小教区拡大評議会 議事録

- ◆ 日 時：2012年2月11日（土）10:00～14:00
- ◆ 場 所：イグナチオホール
- ◆ 出席者：松村主任司祭、片柳助任司祭、議長団、評議員、その他関係者

### 1. 報告事項

#### (1) 神戸地区宣教司牧評議会報告（河野）

- ・東・中・西ブロック等教会が集中している沿岸部は整理・統合し、余力を内陸部に向ける。
- ・教区ブロックの見直し  
三田教会は神戸地区所属を望んでいる。西ブロックも西区、三木市、小野市と宣教の余地があり、4教会で話し合っている。司祭が有効に稼働出来るように各ブロックは、主日ミサを検討する必要あり。六甲教会は約1,800名の信徒を抱え7地区、3ブロックに分かれて活動。他の小教区と協力する為には、個々の活動について調整の必要あり。
- ・今夏の神戸地区教会学校合同キャンプの開催について  
東日本大震災地を神戸地区で支援する。福島教会から最大60名の子供とその親を招待する。神戸地区の子供を含めて200名の予定。交通費はカリタスにも働き掛ける。完全招待になれば各教会にも協力を要請する。日程2012年8月3日（金）～5日（日）、神戸地区から参加希望を募る。
- ・各ブロック報告
  - 西ブロック 信徒による通夜司式研修会を2回行い通夜は4月から信徒が行う。
  - 中ブロック 1月17日阪神大震災祈祷式 在日バチカン大使チェノット大司教、仙台地区平賀司教ほか
  - 東ブロック 諏訪司教歓迎ミサ 2月19日（日）11:15～神戸中央教会にて
- ・養成委員会
  - 神戸地区シルバー使徒職養成コース2012年2月4日、18日、25日各土曜日13時～16時  
原則3回参加、会場：神戸中央教会、参加費：無料、対象：信徒全般 六甲教会から5名参加。
- ・社会活動委員会
  - 神戸地区活動センター越冬支援活動； 炊出し1,868名、ボランティア495名、生活相談81名、医療相談67名、散髪60名の対象者があった。

#### (2) 東ブロック合同企画「諏訪司教歓迎ミサ」について（河野）

- ・日時：2012年2月19日（日）11:15 歓迎ミサ、ミサ終了後、激励パーティー
- ・会場：カトリック神戸中央教会
- ・司式：諏訪司教、シリロ神父、赤波江神父、タンス神父、オマリー神父、松村神父、片柳神父（予定）
- ・侍者；住吉、六甲、中央（六甲からも中学生以上 2～3名要請あり）
- ・先唱：日本語、英語、また、第一朗読、共同祈願、歓迎パーティーのお手伝いについても要請あり。
- ・献金：高松教区支援に充当

#### (3) 各部・各会からの報告（各コーディネーター）

- ・クリスマス関連行事について
  - 教会学校：クリスマスキャロル 住吉教会も参加、本年も参加予定。
- ・新成年祝福式と教会新年会について  
地区会：手作りの会を目指し、年末から新年にかけて4回集まり、準備をした。  
料理、ケーキ等も手作りで信徒の皆様からの応援もあり、予算の約半分の費用で実施。  
地区会の皆様とも一層親しくなれた。



#### (4) その他

- ・消防避難経路について  
別途消防避難経路図面掲示予定。避難経路、消火栓位置を確認のこと
- ・一粒会からの報告  
一粒会は若い司祭要請を目的としているが、大阪教区では「高齢者の神父支援にも充当することが可能」と規約を改定することで合意された。

## 2. 審議事項

### (1) 平成24年度教会行事日程について（藤井）

- ・本日協議した次年度計画日程は、12日に各部会に配布する。速やかに修正箇所を報告のこと。

### (2) 平成24年度小教区評議会予算編成について（代理河野）

- ・23年度実績：配布した仕分日記帳の実績をチェックし部分類コード等の誤りがあれば修正すること。また、1月23日までのリストに記載されていない場合、2011年度評議会予算支出データ表に記載し提出のこと。
- ・支払処理ルール（事務処理手続きルール）は周知徹底する。

### (3) 行事部の廃部について（川合）

- ・教会行事は23年度から地区会が担っているため廃部を提案。廃部案は多数決により可決。

### (4) 「大船渡ボランティア派遣について」について（川越）

- ・カトリック大阪教区管区が8箇所の拠点を開設。被災地復興のために長期的な支援を行うことを決定。これにより大阪教区は、大船渡が拠点となる。下記の通り、短期ボランティアを六甲教会として参加募集・企画（案）することの提案があり、多数決により可決された。

- 期間 3月27日（火）～3月31日（土）4泊5日

- 募集人数 男性5名 女性5名（宿泊施設の事情の為）

- 参加費：大人20,000円、学生15,000円

- 活動内容・活動場所：当日配布別紙資料詳細記載

- 企画・運営：社会活動部 引率責任者：片柳 弘史神父

六甲教会から今回活動費の支援は、「東日本大震災支援金」として、今夏の「神戸地区教会学校合同キャンプ（福島の教会から最多60名の子供とその親を招待）」と合わせて支援することについて多数決にて可決された。

尚、傷害保険に関して、更に検討する必要あり（例えば使用車での交通事故対応など）。

### (5) 「メサイア演奏会」開催について（船井）

- ・2011年同様、2012年度も第二日曜日12月9日の午後開催することで承認された。

### (6) 教会学校からの提案（吉村）

- ・来年度の初聖体を「キリストの聖体」の祝日に変更することについて要望があり、検討する。また初聖体の祝品は、これまで壮年会と婦人会のお祝いであったが、次年度から教会から進呈する。



会議に出席したメンバーは、昼食抜きで4時間も熱心に討議しました。

## 《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします

### 小教区評議会

3月18日(日)10時ミサ後 小教区評議会

### 典礼部

3月3日(土) 11:00 典礼部会

### 三日月会

3月19日(月) 14:00 ミサと例会



### 教会学校

3月10日(土) 教会学校卒業式・終業式

3月11日(日) プチトマト公演

### 施設管理部

3月25日(日) 部会

### 地区会

3月25日(日) 11:30 地区役員分かち合い

### 宣教部会

3月31日(土) 10:00 部会

## 《お知らせ》

教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです。

### ★社会活動部より★

3月7日(水) 10:00 ♪手芸の集い 第1・2会議室 どなたでも参加ご自由です。

10日(土) 10:00 ♪炊き出し お台所 小野浜グラウンドにて配食やおじさんたち  
とのお話し相手だけでもOKです。

15日(木) 9:30 ♪ともしび会 お台所 ケーキ作り  
14:00 ♪ベタニアの集い

18日(日) 10時ミサ後 ♪ふれあい広場 イグナチオホール  
お弁当、食料品、手作り作品など

※ 社会活動部連絡会は、4月1日(日)10時ミサ後

### 春の墓参

3月11日(日) 10時ミサ後

春の墓参は10時ミサ後行います。混雑しますので、長峰墓地へは  
お誘いあわせの上、なるべく同乗してお越し下さい。

## イエスの言葉——ケセン語訳 山浦玄嗣 文春新書 (2011年12月刊)

ケセン語訳聖書を出版された大船渡市の開業医山浦さんが、ケセン語訳に挑んだ経緯を含めて、日本の社会の中で生きていく私たちにイエスは何を語られているのかを書いています。また将に昨年の津波に襲われた体験をしっかりと踏まえながら被災者にとっての福音書の面も含まれています。

聖書のケセン語訳は、ユダヤを舞台に西洋（ギリシャ）語で書かれた聖書を、風土も背景も違うわれわれ日本人に理解しやすく、また親しみやすく紹介しようとの意図でなされた仕事です。それだけに、これまで何回となく読んでいても気がつかずに通り過ぎてきたり、ちょっと分かりづらく感じられていたところが、本書によってガリラヤの人々が日本人に近く感じられるようになります。感動を伴うイエスの言葉が、メッセージが、現代に生きる私たちの目の前で聞こえてきます。

とんでもなアござりやす、旦那様（だなさま）、んだって、犬っこでも旦那様の飯台（はんてア）から零れる御飯粒ぐれアならば頂ぐものでござりやすよ。 （マタイ 15/27 原文縦書き）

山浦さんは、幼いときからのカトリックの信者で、東北大学医学部助教授をやめて大船渡で開業医をされつつ、独学でギリシャ語を学びながら、ふるさとのことばケセン語（大船渡・陸前高田地方の方言）に訳しました。この聖書はCD付きの4冊の福音書で教会図書室にあります。

昨年夏にはNHK-Eテレで「こころの時代」シリーズ私にとっての3・11『ようがす引き受けだ!』（12年2月5日にも放送）で語られました。

また、教会報1月号で紹介されたように昨年秋に「ナザレのイエッシュー」も出版されています。こちらは鹿児島や京都・名古屋などの方言も交え、さらに雰囲気があるものになっています。彼の本を使って、ぜひともわかちあいの会＝読書会をしたいと思っていますがいかがでしょうか。

（飯塚）



## みんなの広場

射 埴

ヨハネ 三好

「ミサ」「教会の祈り（聖務日課）」「主の祈り」「アベ・マリアの祈り」「栄唱」「使徒信条」「朝の祈り」「夕の祈り」「食前の祈り」「食後の祈り」「始業の祈り」「終業の祈り」「お告げの祈り」「アレルヤの祈り」etc. ちょっと思い出しても定型の祈りはいろいろあります。

確かだとは言えないが昔読んだ本のこんな記憶があります。

第一次世界大戦の頃、イギリスに「ウイリアム・ドイル」という神父（イエズス会士？）が従軍司祭

として戦場で働きました。攻撃に出る前の夜は塹壕の中で信徒の兵士の告解を聞き、弾薬の空き箱を祭壇に奉獻文と聖変化だけのミサをささげ、信徒の兵士には最後になるかもしれない聖体を授けました。攻撃が始まると塹壕を飛び出し、銃弾の飛び交う中を敵味方問わず負傷者の手当をし、瀕死の兵士には条件付きの罪の赦しを与えて回りました（大部分の兵士はキリスト教徒で何らかの形で洗礼を受けているであろうから）。

このドイル師は「射祷の使徒」と渾名されたことがありました。「射祷」とは神に向かって折に触れでする自由な短い祈りのことをいいます。祈りとは神への語りかけ、「このチョコレートはおいしかった。Deo gratias」、「彼奴にはむかつく」、「聖書は痛いことばかり書いてある」、「急いでいるのに信号なかなか変わりません」その時その場で神様とおしゃべりをします。神様の前で格好をつけても始まりません。神様に「こら、何だそれは！」と叱られるのは怖いけれど。

ドイル師は毎日その日は何回射祷をしたか克明に記録していたそうです。こんなのはどうかと思いますが、その時その時、神に語りかけながら生きる、本当に信じていたら当然かもしれませんが、でも、つい？定型の祈りはそのための「門」かもしれません。終わりではなく始まりです。

#### 広報部員のつばやき

あちらこちらで梅もほころび、日増しに春の息吹が感じられる今日この頃、丁度四旬節に入りました。信徒にとって、「キリストの死と復活」は、自分を見直す大きな出来事だと思います。

イエスは、「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」と私たちに命じておられます。この四旬節の間、「私にとっての十字架とは何だろうか。」「十字架を担いきれない自分のこだわりは何だろうか。」 ゆっくり考える時間ではないでしょうか。

長く、暗い冬を越せば、やがて暖かく、明るい春がやってきます。四旬節に当たって、いいご復活祭が迎えられるように準備しましょう！  
(T.H.)

教会報 4月号の発行は、4月1日(日)です。

編集会議は3月25日(日)です。

記事原稿は、3月18日(日)正午までに信徒会館受付へご提出願います。(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

#### カトリック六甲教会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21

電話 078-851-2846

FAX 078-851-9023

発行責任者 松村信也

編集 広報部